

令和 7 年度学校関係者評価委員会議事録

学校法人常松学園札幌工科専門学校

学校関係者評価委員会

議題

令和 7 年前期の実施状況報告と改善方針

1. 開催日時 令和 7 年 1 1 月 2 0 日（木） 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0

2. 場 所 札幌工科専門学校 第 2 校舎 会議室

3. 委 員 <出席>

川村 晃輝 公益社団法人日本測量協会 北海道支部 事務局長（業界関係者）

宇野 稔弘 一般社団法人札幌建設業協会 専務理事兼事務局長（業界関係者）

古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長

松本 勲 モエレ町内会員

三上 敬司 校長

太田 潤一 副校長

大坂 道明 土木系主任

岩瀬 聡 造園系主任

<オブザーバー>

常松 哲 理事長

<記録>

亀田 沙織 事務局 課長代理

<欠席>

嘉屋 幸浩 (株)園建 代表取締役（企業等委員）

奥内 尚史 一般社団法人札幌造園協会 理事長（業界関係者）

4. 資 料 令和 7 年度前期 学校の取り組み状況に関する報告

別添資料 1 ~ 4

※学校関係者評価委員会

文科省の示す「学校評価ガイドライン」に則り、下記の項目について全教職員による学校自己評価を実施している。学校関係者評価委員会は、その自己評価結果を評価し、自己評価結果の客観性・透明性を高めることや、専修学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

I 教育理念・目標

II 学校運営

III 教育活動

IV 学修成果

V 学生支援

VI 教育環境

VII 学生の受け入れ募集

VIII 財務

IX 法令等の遵守

令和7年度前期 学校の取り組み状況に関する報告

※グレー色は前回の内容

I 教育理念・目標

＜令和6年度後期の報告と令和7度の改善方針＞

1 報告

自己評価による指摘

- ④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(学生や保護者に教育目標の意味を伝え、理解させているか) 【評価 3.1】

- ・保護者へは入学式の他に周知する場が少ない。また、科・コースごとに違いがあり、教員側も教育目標の趣旨を深く理解し共有できていない面がある。
- ・数年ぶりに入学式に保護者向け説明会を行うことができた。また、次年度施工管理科土木コースに委託生を送る企業向けに、入学前説明会を実施した。

2 改善方針

- (1)全ての項目において最も低い評価となっている。全ての常勤教員が、本校が持つ社会的役割を念頭に置き、改めて学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想を研修し、共通認識の基学生への教育理念定着を図る必要がある。

＜委員のご意見を受け＞

- (1)上記①に関し、教務、進路、学生指導からなる分掌別の学校体制づくりについて、分掌長が目標を掲げ、そこに向かい学生指導を行い、結果を評価し、改善していく姿が望ましいが、現状では経験不足の教員が多く、教科指導と分掌長としての業務を両立できる余裕が無く、現状の系主任を中心とした体制で学校運営を進めていく。

委員の意見

(下原) 分掌長というのは？

(三上) 生活指導部、就職指導部など、責任者を分掌長と呼んでいます。

(下原) 保護者・企業向けの説明会をできたということだが、保護者・企業から何か意見や要望はあったのか？

(三上) 2月末に企業向けに入学前説明会を行った。9月入学についての意見を求めたが、強い希望は出なかった。

＜令和7年度前期の報告と令和7年度後期の改善方針＞

1 報告

- (1)入学式の保護者向け説明会では教育理念をしっかりと伝える会とした。また、今年度施工管理科土木コースに委託生を送る企業向けに、入学前説明会を実施し本校の教育理念を共有した。

(2)保護者へは入学式の他に周知する場が少ない。また、科・コースごとに違いがあり、教員側も教育目標の趣旨を深く理解し共有できていない面がある。

2 改善方針に対する現状

(1)学生にとって本校の教育理念を学ぶ機会が入学後の数回であるのが現状である。本校の教育理念が学生の進路意識の向上や社会人としての成長に繋がるものであることから、今後も HR 等で継続指導を重ね定着させたい。

(2)全道唯一の土木・造園系の専門学校である本校の教育理念を再度確認し、常勤教員のみならず全ての教育職員にこれを浸透させたい。

委員の意見

全員の合議を得た。

II 学校運営

<令和6度後期の報告と令和7度の改善方針>

1 報告

令和7年度入学生の合格状況（表一3）

変更 3月15日現在

	応募総数	① 合格							② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学
		一般	学校推薦	特別指定校	社会人	企業委託	A O	合計				
土木	16	3		6		6		15	1		1	
造園	7		1	4			2	7				
測量	17	1				13		14	1	1		
施工	34					27		27	7			
合計	74	4	1	10		46	2	63	9	1	1	

⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか

（発議から審議、決定までの流れが明確で組織的か）

【評価 3.2】

- ・学校運営における様々な課題解決に向けた意思決定の過程が見えない、またその決定事項について共有化がなされていない。
- ・職員会議では結論を確認するに止まる会議が多い。

2 改善

(1)⑤について、担当者が直接校長に相談し、その場で決定してしまったため、その後若干の不都合が発生してしまった事例が複数あった。担当者が系主任に発議し、主任が校長、事務局の意向を調整し担当者へ戻すという過程を尊重し、決定後は直ちに職員に情報共有を図る。また外部への書類送付については校長決済後に行う事を徹底する。

<委員のご意見を受け>

(1)新教育課程が理事会の承認を得て確定した。(別添資料.1)

(2)上記①～③に関し、企業のご意見を聴取するためアンケート調査を実施した。(別添資料.2)

その代表的なご意見と傾向を以下に示す。

- ・専門性豊かな教員による解りやすく身に付く授業や、土木・測量に関する基礎知識の修得の他に、基本的な生活習慣や人間性の育成も求められている。
- ・意見の中に、余裕を持ったカリキュラム、コミュニケーション能力の育成があった。
- ・土木施工管理技術者試験では、2 級を主に希望者に対して 1 級を望む声が多い。
- ・9 月入学については 73.2%が 4 月入学を望んでいるが、卒業後 1 級の講習を本校に望む声が 51.2%あった。

これらの意見を精査し新教育課程へ反映した。9 月入学については、企業担当者への聞き取りやアンケートの結果では、強くこれを望む企業が少なかったため、1 級土木の取得状況等も見定めながら長期的に検討していく事とする。

委員の意見

(下原) 入学生の状況で、土木と土木施工の定員と入学数が逆転している。土木施工の方は時代背景により企業委託生の人数が増えているが、その他の学科は減少傾向が止まらない。それに対して学校として具体策を考えているのか？

(三上) 令和 7 年度から特別コースを作り、2 年制の学生募集を始めた。高い目標を掲げ、授業料を免除することで PR している。これから継続して特別コースを浸透させていきたい。国の給付奨学金制度により、大学へ進学する家庭が増えているので学生募集は厳しい傾向がある。

(下原) 大学と専門学校の違いをインプットさせることが必要。

<令和7年度前期の報告と令和7年度後期の改善方針>

1 報告

(1) 令和8年度入学生の合格状況(表-3)

変更 11月18日現在

	応募総数	① 合格							② 不合格	③ 受験辞退・欠席	④ 合格辞退	入学
		一般	学校推薦	特別指定校	社会人	企業委託	AO	合計				
土木	6	2		2	1	1		6				
造園	9			3			6	9				
測量	12					11		11	1			
施工	16					14		14	2			
合計	43	2	0	5	1	26	6	40	3			

2 改善方針に対する現状

(1) 校務の分掌化

- ・昨年度から懸案事項であった校務の分掌化について、現行の校務別に職員を割り当てる学校運営と、分掌ごとにチームとして校務にあたる分掌組織、その双方の特徴を理解したうえで、今後の学校運営を分掌により行うことにした。
- ・現在、教務、学生指導、進路指導の3分掌の他に、土木系、造園系の専門教育活動も分掌として位置付ける組織を検討中である。

(2) 校務の見直し

- ・学校における階層別研修会において学校改善のための様々な議論がなされた。その中で、主に①学習指導内容の共有化。②書籍等の無駄の見直しが議題に上った。
- ・①学習指導内容を、個人のPCからサーバー内にフォルダーを新設し共有化を図る試みを行ったが、データ容量等の問題で別の手段を模索中。
- ②利用の少ない定期購入誌について必要の有無を職員に対しアンケート調査を実施。

委員の意見

(宇野) 土木人気は落ち込んでいるが、建築は学生が集まっていると聞く。やはり土木はキツイというイメージが強いのだろうか？

(三上) 土木の働き方改革や賃金の高さが高校生や保護者に伝わっていないので人気がないと感じる。昔に比べればIT化が進み、危険性も軽減されている。国・業界としての宣伝が必要だと思う。

(宇野) 高校生にドローンや遠隔操作などの現場を見てもらおうと食いつきが良いので、業界のイメージを変えていきたい。

(三上) 普通高校の教員には土木の仕事が理解されにくい。昨年度、高校教員が受け持っている生徒と一緒に体験入学に参加されたが、やはり昔のイメージ(ヤクザ系)を持っていたと話していた。

(川村) 開発局も土木系職員の確保に苦戦している。土木科だけではなく普通科にも仕事内容を PR しているところ。普通科の生徒の反応は良く、3K のイメージは無くなってきており、ICT やデジタルを取り入れていることが浸透してきている。とは言え、そもそも 18 歳人口が減少している。

(三上) 特別コースを設定し、1 級土木施工・大卒公務員・大学編入を目指す学生を集めているが、思ったよりは応募がない。高校生には公務員＝事務系のイメージを持たれている。給与面では民間企業の方が高くなってきているので、公務員を希望する学生が少なくなっている。地元志向も強くなっている。

(古城) 企業委託生には 1 年制が人気だが、インセンティブがはっきりしていれば 2 年制にも企業委託生を呼べるのではないかな。

(三上) 会社の方針で 2 年制に送っていただく企業もある。2 年制のメリットとして測量士補＋1 級土木施工管理技士補が狙えることがある。

(古城) 1 年制の定員を 15→20 に増やすのはどうか？

(三上) 再来年度に向けて、2 年制の定員を減らし、1 年制の定員を増やす方向で検討している。

III 教育活動

<令和 6 年度後期の報告と令和 7 年度の改善方針>

1 報告

③教科科目の学年配置や時数の配分は適切であったか

(現行カリキュラムにおける単位の配分は適切か) 【評価 3.1】

- ・常勤教員で、持ち時間数に大きな差があるため、多くの非常勤講師に依存している状況。
- ・前期日程が短いにもかかわらず、後期と同じ単位設定となっている。そのため授業をまとめて実施するなど、教育活動に支障が出ている。
- ・学修段階に応じて発展させるカリキュラムとなっているため概ね適切とを感じるが、やや密度が濃すぎるという学生意見も散見される。

2 改善

- (1) 持ち時数の差について、積極的に授業研究を行い多くの教科指導力を身に付けて行こうという教員と、その意欲が弱い教員との差がこの結果になっている。教員の意識改革が求められる。将来的に非常勤を最小限に止め、常勤教員が全ての授業と学生指導を行いたい。このことでより手厚い人間教育、マナー指導が可能になると考えられる。
- (2) 新教育課程では前期 20 単位を 18 単位に減単した。しかし、授業の密度については各教科担当者がシラバスの見直しにより、基礎基本を確実に定着させたうえで発展的内容の指導と成す、又は発展的内容の精査縮小を検討するなどし、授業改善を行う必要がある。

<委員のご意見を受け>

- (1) 上記①に関し、文科省ではデジタル教科書の使用にあたり文字を手書きする、紙面上で演習問題を解くことがおろそかになる、授業と関係のない内容を閲覧するなどの問題点が指摘されている。本校においても同様の問題を抱えており、現状のスライドを見せるだけの活用法を早期に改善する必要がある。

委員の意見

（下原）スライドを見せるだけの授業を改善する必要があるというのは、どのようにするのか？

（三上）スライドを見せて進める授業と、書かせて提出させてチェックする授業の両方行ったが、前者は居眠りする学生がいたが、後者の方が学生は寝なかった。

（下原）新カリキュラムで 20 単位を 18 単位にしたのは、何を削ったのか？

（大坂）何かを削ったというよりは、全体を見直して組み立てた。時間数を減らしたり、新たな教科を設けたりした。

<令和 7 年度前期の報告と令和 7 年度の改善方針>

1 報告と課題

(1) 新教育課程の導入

今年度より新教育課程の下、教育活動が行われている。旧教育課程からの変更による改善点と課題をまとめる。

- ・特別コースの導入により、公務員コースと民間コース、それぞれ 7 月より週 2 コマの補講を設け指導している。
- ・20 単位から 18 単位に減単したことで、時間割上 3 校時で終了する曜日ができた。この日に特別コースを設け指導したことにより、公務員試験、1 級施工管理試験へ向けた意識が高まった。
- ・土木系の学生においては、10 月の 2 級施工管理試験終了後、直ちに 1 級の取得に向けた指導が開始された。次年度の成果が期待される。
- ・造園緑地科では学習意欲の高い学生が入学した。

(2) ノート PC による授業実践

- ・ノート PC をすべての学生に持たせ、これを必要に応じ授業に活用する取り組みも、2 年目を迎えた。この経験から、板書、プリント、PC 等におけるそれぞれの特徴を踏まえ、適宜指導内容に応じた授業を展開している。
- ・今後も PC を活用した、より質の高い授業展開の在り方を探求していく必要がある。Teams での資料や画面共有、課題提出や添削など、業務の効率化も進めていきたい。

(3) 教員の教科担当時数

- ・今年度も教員間での持ち時数に差があるため、教員の負担感を公平にするよう検討する。

委員の意見

（川村）PC と板書、プリントを組み合わせているとのことだが、PC ではどのように授業をしているのか？

（三上）教科にもよるが、主にパワーポイントを作成して授業を進めている。

（宇野）最近、アンケートや調査も紙ではなくフォームで行うようになった。業務でも加速度的に

PC を使っているので、授業の中で慣れてもらうことは良いと思う。

（三上）学生はPCよりスマホの方が使い慣れているようだ。

IV 学修成果

＜令和6度後期の報告と令和7度の改善方針＞

1 報告

（1）退学及び休学者

[退学]

環境土木・造園施工管理科 2名（不正行為、転職）

[休学]

環境土木工学科2年 1名（精神的な病気） ※復学予定

（2）資格取得及び就職状況

[資格]

・2級造園技能士（学科＋実技）	6／6名合格（100%）
・2級園芸装飾技能士（学科＋実技）	1／1名合格（100%）
・2級園芸装飾技能士（実技）	1／1名合格（100%） ※実技のみ受験
・3級造園技能士（学科）	9／9名合格（100%）
・3級造園技能士（実技）	8／9名合格（89%）
・3級園芸装飾技能士（学科＋実技）	9／9名合格（100%）
・3級フラワー装飾技能士	1／1名合格（100%）
・1級土木施工管理技士（1次）	C2 1／2名合格（50%）
・1級土木施工管理技士（1次）	G2 3／3名合格（100%）
・2級土木施工管理技士（1次）	前期
・2級土木施工管理技士（1次）	後期 C2・EC 33／34名合格（97%） C1・G1・EG 8名合格
・1級造園施工管理技士（1次）	G2・EG 4／5名合格（80%）
・2級造園施工管理技士（1次）	後期 C2・G2・EG 6／6名合格（100%） G1 3名合格
・2級管工事施工管理技士（1次）	後期 C2・EC 3／7名合格（43%）
・2級ビオトープ施工管理士	G2 6／7名合格（86%）
・生物分類技能検定3級	G2 2／6名合格（33%）
・測量士補	受験者なし
・技術士補（森林部門）	G2 4／4名合格（100%）

[就職]

学生の就職希望状況（表－４）

（人）

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 （委託生含む）	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科 2 年	17	2	12	3	0
造園緑地科 2 年	8	0	5	3	0
測量情報科	21	19	21	0	0
環境土木・造園施工 管理科	24	24	24	0	0

- ・ 国家公務員（一般・大卒・土木） 2 次不合格 1 名
- ・ 国家公務員（一般・大卒・林学） 最終合格 3 名（林野庁 2、開発局 1）
- ・ // （一般・高卒・技術北海道） 0 / 3 名
- ・ // （一般・高卒・林業） 受験者なし
- ・ 北海道職員（企業局 A） 最終合格 1 名
- ・ // （林業 A） 最終合格 1 名
- ・ // （総合土木 B） 受験者なし
- ・ // （林業 B） 受験者なし
- ・ 札幌市（土木） 最終合格 1 名
- ・ 恵庭市（土木） 最終合格 1 名
- ・ 江別市（土木） 補欠合格 1 名
- ・ 余市町（土木） 最終合格 1 名
- ・ 民間企業

環境土木工学科 北海道土地改良事業団体連合会、(株)山田組、(株)シン技術コンサル、
栗林建設(株)、岩田地崎建設(株)、北土建設(株)、岩倉建設(株)、大綱建設(株)、
山崎建設(株)、鹿島道路(株)、(株)東鵬開発、一二三北路(株)

造園緑地科 (株)ジョイフルエーカー、(株)コクサク、(株)峯樹木園、(株)鈴木東建、
(株)横山造園

- ・ 企業委託生 45 名

①教育目標の達成度

（１）基礎学力の向上

【評価 3.3】

- ・ 入学者の基礎学力差があり、個別指導の時間が多く必要になる。自ら教員の説明を理解しようという意識を持って授業に望む学生の割合が減少し、意図的に個別指導に頼り試験等をクリアしようという学生が増加している。
- ・ 2 学年になっても加減乗除の計算が出来ない学生もいる。

③教育目標の達成度

(3) 社会人になるためのマナーと教養を身につける

【評価 2.9】(最下位)

- 社会的なマナーが身に付いていない学生に対しての指導が不十分であった。
- HR 活動による担任による指導が中心となっており、その担任間でも指導に差がある。
- ある程度実現できているが、マナー面ではやや課題がある学生も散見される。

2 改善

- (1) ①(1)では、基礎学力の向上について、少子化や補助金増等による大学進学者が増える中、専門学校入学者の基礎学力の低下は今後も続くと予想される。また、一定水準以下は入学させないとの姿勢では学校経営が成り立たない。教員は更なる授業法の改善、毎授業後の評価、個々の到達度に合わせたきめ細かな指導を繰り返すことが重要と考える。
- (2) ③(3)では、コロナ以降中学・高校でのマナー指導が稀薄になっているようで、大学でも普遍的な悩みとされている。マナー教育の実施や掲示指導に合わせ、細かな罰則規定の設定が考えられるが、根気強い指導による心の涵養を促すことが重要と考える。
- (3) ①③共に、常勤教員が強い情熱をもって学生指導に当たらなければ基礎学力の向上や、社会人としてのマナー向上、強いては専門知識・技術の定着は図られない。(非常勤の教員に、これを求める事はできない。非常勤教員の割合が50%近いところにも、低評価となった原因があると考える。)

委員の意見

(下原) 以前は札幌工科の学生は礼儀正しいと評判をいただいていたが、現状は変わってきているのが伺える。

(三上) 20 歳未満が喫煙しているという話があり、見えるところでは指導しているが、下宿や見えないところまでは届かない。

(下原) 父兄も知っているのか？

(三上) 出席に関しては連絡しているが、喫煙については報告していなかった。

(下原) 生活リズムやパターンは学校だけではどうにもならない難しい部分だと思うが、言わなければならないと思う。伝えなければ改善につながらない。

(大坂) 常勤教員で学生指導を行うのが理想だが、非常勤講師が多い状況がある。新任教員の成長を促し、新教科の勉強を行い、担当教科数の調整し、常勤教員が手厚く学生指導を行えるようにしていきたい。

<令和7年度前期の報告と令和7年度後期の改善方針>

1 報告

(1) 退学及び休学者

[退学]

測量情報科 1名（精神的な病気）

環境土木・造園施工管理科 1名（病死）

[休学]

環境土木・造園施工管理科 1名（精神的な病気）

(2) 資格取得及び就職状況

[資格]

・2級造園技能士（学科＋実技）	6／6名合格（100%）		
・2級造園技能士（学科）	1／1合格（100%）	※学科のみ受験	
・2級園芸装飾技能士（学科＋実技）	3／3名合格（100%）		
・2級園芸装飾技能士（実技）	2／2名合格（100%）	※実技のみ受験	
・3級造園技能士（学科＋実技）	8／8名合格（100%）		
・3級園芸装飾技能士（学科＋実技）	7／7名合格（100%）		
・1級土木施工管理技士（1次）	C2 4／5名合格（80%）		
	G2 2／5名合格（40%）		
・2級土木施工管理技士（1次）	後期 C1 12名受験	C2 9名受験	
	G1 6名受験	G2 3名受験	
	EC 24名受験		
・1級造園施工管理技士（1次）	G2 3名受験		
・2級造園施工管理技士（1次）	後期 C2 5名受験		
	G1 7名受験	G2 4名受験	
・2級管工事施工管理技士（1次）	後期 C1 1名受験	C2 1名受験	
・2級建築施工管理技士（1次）	後期 G2 1名受験		
・2級ビオトープ施工管理士	G2 6名受験		
・生物分類技能検定3級	G2 1／7名合格（14%）		
・2級エクステリアプランナー	G2 1名受験		
・測量士補	G2 2／2名合格（100%）		
・技術士補（森林部門）	G2 4名受験		
・技術士補（建設部門）	C2 4名受験		
・2等無人航空機操縦士	18名受講		

[就職]

学生の就職希望状況（表－４）

（人）

学 科	学生数	うち、 企業委託	うち、民間企業 （委託生含む）	うち、 公務員	就職を 希望しない
環境土木工学科 2 年	15	2	8	7	0
造園緑地科 2 年	8	0	3	5	0
測量情報科	14	12	14	0	0
環境土木・造園施工 管理科	26	26	25	1	0

- ・ 国家公務員（一般・大卒・土木） 最終合格 1 名（開発局 1）
- ・ 国家公務員（一般・大卒・林学） 最終合格 2 名（林野庁 2）
- ・ // （一般・高卒・技術北海道） 最終合格 3 名
- ・ // （一般・高卒・林業） 最終合格 2 名
- ・ 北海道職員（建設土木 A） 最終合格 1 名
- ・ // （総合土木 B） 最終合格 2 名
- ・ // （林業 B） 最終合格 3 名
- ・ 函館市（土木） 最終合格 2 名
- ・ 音更町（土木） 最終合格 1 名
- ・ 民間企業
- 環境土木工学科 新太平洋建設、西江建設、札建工業、岩田地崎建設、高堂建設
- 造園緑地科 コクサク、横山造園、羽嶋松翠園
- ・ 企業委託生 40 名

(3) 指導上の特筆事項

- ・ 進路選択において、本校では伝統的に公務員希望者が多く、公務員試験に合格することを目標に一般教養と専門性を磨いてきた。しかし、ここ数年、民間企業の労働環境や給与の改善の一方公務員（国・道）における転勤への不安などにより公務員希望者が減少している。その結果、進路実現のため意欲的に学習しようという学生も減少したように感じる。
- ・ 昨年度より 1 級土木施工管理試験が 19 歳以上で受験可能になったことから、受験を希望する学生に対し、放課後に少人数制の指導を行なったことで高い成果を上げた。このノウハウを今後も継承し、さらに高い効果を上げることを期待する。

(4) 教職員が一体となった力強い指導

学習成果の向上のみならず、社会人としてのマナーの定着、専門知識・技術の定着を図るため、常勤教員と非常勤教員の連携を密に指導する。

委員の意見

（宇野）少人数指導だとやはり教育効果が上がるものか？どのくらいの時間対策をするのか？

（三上）少人数だと集中でき、分からないところがあれば学生も手が挙げやすい。個別に指導することもできる。狙う資格にもよるが、例えば施工管理技士では過去問の解説を何年分も行っている。

1 回だけではなく繰り返し対策授業を行うことで成果を上げている。

（宇野）転勤や住環境の変化にネガティブな考えの学生が増えてきているのか？

（三上）開発局や北海道に受かったとしても、地元の市町村に進む傾向が強まっている。

V 学生支援

<令和6度後期の報告と令和7度の改善方針>

1 報告

- ・⑨課外活動に対する支援体制は整備されているか 【評価 2.9】
- ・⑩学生の生活環境への支援は行われているか 【評価 3.1】

2 改善

(1)本校では課外活動（部活動等）の支援は行っていない、また学生の生活環境には基本的に関わらない立場を取っている。

(2)北専各連では専門学校に対しバドミントンやダンスなどの競技大会を催している。本校では現在、積極的に参加希望者を募っている状況にはない。

<委員のご意見を受け>

(1)上記①に関し、新教育課程の中に「ICT 技術概論」を設けた。これは、北海道開発局 ICT・CIM/BIM アドバイザー制度を活用し、道内7社より部門別にアドバイザーを招聘し、学生に授業を行って行くものとした。（別添資料.3）

(2)上記②に関し、北海道ハイテクノロジー専門学校（ハイテク校）との連携事業を進めることになった。内容はハイテク校で行っているドローンの資格講習を本校の学生が受講する。ハイテク校の学生に対して測量の基礎的学習を指導し、将来本校測量情報科へ委託生として入学させるといったもので、今後「パートナーシップの提携」に向けて詳細を詰めていく。

（別添資料.4）

委員の意見

全員の合議を得た。

<令和7年度前期の報告と令和7年度後期の改善方針>

1 報告

(1) 学生の動静

試験中の不正行為、学級内でのトラブルや家庭の事情による遠隔授業の実施等の事例が発生。

(2)6月11日、北海道ハイテクノロジー専門学校との専専連携を締結した。このことで2等無人航空機操縦士のライセンスを取得できることになった。今年度は18名の学生が実技講習を終了している。

2 改善

- (1) 年々多様な学生が入学してくるが、特に近年精神年齢の低下が顕著になってきているように感じられる。悪意なく相手を傷つける言動を繰り返す学生、僅かな誹謗中傷により心を病む学生。コロナにより集団生活での学びを経てこなかった学生の特徴とも考えられるが、本校でもこれらの学生に対する適切な指導法を確立していかなければならない。
- (2) 専専連携の締結により、本校の学生にはドローンのライセンスを取得させ、ハイテク校の学生にはドローンの操縦者を必要とする企業へ就職し、その後本校へ委託生として入学させることを目標としてきた。しかし、委託生として測量科へ入学する者は、現状では不在である。次年度はハイテク校の学生に対し、測量の魅力を伝える場をより多く設けることで、この締結による入学生の増加に結び付けたい。
- (3) 多様な学生の悩みを担当教員が親身になり指導しているところであるが、今後はより適切な指導を行うために、スクールカウンセラーの支援を受けられる体制を築きたい。

委員の意見

(宇野) 専専連携は何かきっかけがあったのか？

(三上) 北海道ハイテクノロジー専門学校からの声かけがきっかけだった。ドローンの操縦資格を取ってもなかなか安定した就職に結びつかない場合があり、測量業界で活用できるのではないかと申し出があった。

(川村) 測量業界も若年層が薄くなっているので、測量設計業協会を通して北海道ハイテクノロジー専門学校にも求人をしているところ。UAVの技術を持っている人材は業界としても魅力がある。

(三上) ある測量会社ではドローン操縦者を採用したが、街中ではなくて林野で測量することもあり、イメージしていた仕事とのギャップで辞めてしまったケースがあったと聞く。あらかじめ測量を学んでいれば、業務内容や現場について理解するので、ギャップによる離職が防げるのではないかと期待されている。

(川村) ドローンを飛ばせるだけではなく、解析機器・ソフトも必要となる。小さな会社では費用面での厳しさがあるが、これから需要は高まっていくと考える。

(古城) ここの自己評価点が低かったのは、学級トラブルや不正行為があったからか？

(三上) そういうわけではなく、学校以外での生活まで支援できているかどうかの観点で低くなった。この自己点検の質問内容も分かりにくい部分があるので見直す予定である。

VI 教育環境

<令和6年度後期の報告と令和7年度の改善方針>

1 報告

①教室・実験室等の規模や配置は適切であったか 【評価 3.2】

- ・土木実験室が狭い。(最大 1 班 3～4 人×4 班) 従って 1 クラスを 2 班に分けて実施している。
- ・イーエス本社別館の使用許可により教室配置の選択肢が増えた。

2 改善

- ・授業効率は低いが、少人数による丁寧な指導ができることから、引き続き 1 クラスを 2 班に分けて実施する。ただし、これ以上学生数が増えると、現状の実験室で実験を行うことは難しい状況にある。

委員の意見

全員の合議を得た。

<令和 6 度後期の報告と令和 7 度の改善方針>

1 報告

- (1) イーエス本社別館が教室となり、造園科での実習や講習等に活用している。また、学園祭でのイベント会場として活用するなど活用範囲が広がりつつある。
- (2) 今年度全教室にエアコンが設置された。今年度は真夏を過ぎた時期の設置であったため数日間の利用であったが、次年度からは快適な環境で夏の授業を受けて貰えるものと、感謝する。
- (3) GNSS の受信機を購入していただいた。日進月歩で進化する測量機器ではあるが、これからは実現場に近い測量実習の形態を組むことができるものと思われる。

2 改善

- ・測量機器については、未だ不足しているものが多く十分とは言えないが、全て満足できる状態にするには多額の予算が必要になる。実現場同様のものを考えるのではなく、実習教材として学生の学びを支援するための適切な機器を整備していきたい。また、そのような指導法に改めることも重要と考える。

委員の意見

(岩瀬) 当別演習林での森林実習で GNSS を活用している。取得データを PC マッピングソフトにも活用し、学習内容を繋げている。

(三上) 寄贈していただいた 3D レーザースキャナーも保有している。情報処理室の PC の windows11 への対応や、点群データを扱えるスペックにするため SSD、メモリを強化した。

VII 学生の受け入れ募集

<令和6年度後期の報告と令和7年度の改善方針>

1 報告

(表-6)

<変更>2025年3月15現在

学科\入学年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7
環境土木 工学科	体験参加数	23	34	22	31	16	18
	出願数	19	23	19	23	16	16
	入学数/定員	15/25名	21/25名	17/25名	19/25名	14/25名	14/25名
	定員充足率	60%	84%	68%	76%	56%	56%
	委託生の割合	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%	2/19名 10.5%	2/14名 14.3%	5/14名 35.7%
造園緑地科	体験参加数	12	26	13	12	16	15
	出願数	2	18	9	9	8	7
	入学数/定員	2/20名	17/15名	8/15名	9/15名	8/15名	7/15名
	定員充足率	10%	113%	53.3%	60%	53%	46.7%
	委託生の割合	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%	0/9名 0%	0/8名 0%	0/7名 0%
測量情報科	体験参加数	10	11	13	18	15	8
	出願数	15	16	20	22	22	16
	入学数/定員	15/10名	15/15名	18/15名	21/15名	21/15名	14/15名
	定員充足率	150%	100%	120%	140%	140%	93.3%
	委託生の割合	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%	21/21名 100%	19/21名 90.5%	12/14名 85.7%
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	19	5	8	17	17	10
	出願数	33	21	23	24	27	34
	入学数/定員	30/10名	20/15名	22/15名	24/15名	25/15名	27/15名
	定員充足率	300%	133%	146.7%	160%	167%	180%
	委託生の割合	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%	22/24名 91.7%	25/25名 100%	27/27名 100%
全 体	体験参加数	64	65	56	78	64	51
	出願数	73	69	78	71	73	73
	入学数/定員	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名	69/70名	62/70名
	定員充足率	92.3%	95.4%	104.3%	92.9%	98.6%	88.6%
	委託生の割合	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	47/69 68.1%	44/62名 71.0%

※参加者のうち出願可能の人数

- ・ 職員の評価は概ね良好。
- ・ 今年度の入学者選抜試験で数学の点数が合格点に満たず、不合格者を出した。

2 改善

- ・ 数学の試験に関し、体験入学では過去問を配布し 50 点未満は不合格であること説明し、事前学習を求めている。また、委託生には企業からも強く学習する旨を依頼した。しかし、この結果となったため、次年度からは同一学科への再受験を認めるものとし、1 回で見放すことなく、数学の基礎学力が定着した受験生は合格とさせたい。また、これまで造園系学科のみで行われていた、アドミッションポリシーを土木系でも打ち立て、その意思を入試選抜の判定に用いることを検討する。なお、合格者のうち数学の基礎学力が乏しい者には、入学前教育として月一回数学の課題提出を課している。
- ・ 学生募集に関し入学相談室他、多くの取り組みを精力的に行っている。
- ・ 教員は、入学生の安定的確保のために、入学生に対し成長を実感できる授業を行い、満足して

希望する進路先へ送り出す。また、その学生が業界からの信頼を得る。この循環を築くことで安定した入学希望者に恵まれるとの、基本理念を常に念頭に置き職務を遂行したい。

委員の意見

（下原）学校の経営と授業運営とのバランスが難しい状況だ。過去問を配布して入学者を確保しているが、入試をクリアしたとしても実力が伴っていない学生もいるのでは。

（伊藤）今の学校の役割を考えると、企業からの人材を育ててほしいという希望に応えることが求められている。今回不合格にした学生も、企業にとっては必要な人材である。学力の高い学生だけを確保するのは難しくなっているので、先生方の苦労はあるが、育てていくことが役割だと考えていかなければならないのでは。

（三上）入学前教育を実施した学生の中に、入学後学力が伸びた者もいる。能力が低くても諦めずついてくる学生もいる。粘り強く教育していきたい。

<令和7年度前期の報告と令和7年度後期の改善方針>

1 報告

(1) 学科別入学者の詳細

(表-6)

<変更>2025年11月13現在

学科\入学年度		R3	R4	R5	R6	R7	R8
環境土木 工学科	体験参加数	34	22	31	16	18	14
	出願数	23	19	23	16	16	6
	入学数/定員	21/25名	17/25名	19/25名	14/25名	14/25名	
	定員充足率	84%	68%	76%	56%	56%	
	委託生の割合	0/21名 0%	4/17名 23.5%	2/19名 10.5%	2/14名 14.3%	6/14名 42.9%	
造園緑地科	体験参加数	26	13	12	16	15	15
	出願数	18	9	9	8	7	9
	入学数/定員	17/15名	8/15名	9/15名	8/15名	7/15名	
	定員充足率	113%	53.3%	60%	53%	46.7%	
	委託生の割合	0/17名 0%	0/8名 0%	0/9名 0%	0/8名 0%	0/7名 0%	
測量情報科	体験参加数	11	13	18	15	8	11
	出願数	16	20	22	22	17	12
	入学数/定員	15/15名	18/15名	21/15名	21/15名	15/15名	
	定員充足率	100%	120%	140%	140%	100%	
	委託生の割合	15/15名 100%	16/18名 88.9%	21/21名 100%	19/21名 90.5%	13/15名 86.7%	
環境土木・ 造園施工 管理科	体験参加数	5	8	17	17	10	10
	出願数	21	23	24	27	35	16
	入学数/定員	20/15名	22/15名	24/15名	25/15名	28/15名	
	定員充足率	133%	146.7%	160%	167%	186%	
	委託生の割合	17/20名 85%	22/22名 100%	22/24名 91.7%	25/25名 100%	28/28名 100%	
全 体	体験参加数	65	56	78	64	51	50
	出願数	69	78	71	73	75	43
	入学数/定員	62/65名	73/70名	65/70名	69/70名	64/70名	
	定員充足率	95.4%	104.3%	92.9%	98.6%	91.4%	
	委託生の割合	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%	47/69 68.1%	47/64名 73.4%	

※参加者のうち出願可能の人数

(2) 入試選抜制度の一部変更

昨年度の入試選抜において、試験内容を総合的に判断した結果、不合格者を出すに至った。そこで今年度から同年度に同一学科の再受験は認められないという選抜基準を改め2回まで受験可能とした。

(3) 企業委託生および企業委託生担当者向け説明会の実施

- ・体験入学では、一般の希望者と、企業委託生として入学を希望する方を同時に行なっていたが、一般の希望者に対しこれまで以上に本校の魅力を伝え出願者を増やしたい。また企業委託生を希望する方には、委託生としての心構えと入試の準備について（昨年度の不合格者の8名が委託生である。）伝えるべきとの思いにより、午前と午後に分けて実施した。
- ・また、委託生の学生数を増やすべく、これまで派遣のなかった企業749社に対しダイレクトメールを送り、本校で説明会を行った。これまで2回の実施により16社の来校があり確実な手ごたえを得ている。

2 改善

- ・学生募集に関し入学相談員が、詳細かつ膨大なデータから効果的な学生募集の在り方を探り、行動している。その結果、造園緑地科では安定した入学生の確保が実現されているが、環境土木学科の学生が年々減少している。この原因を究明し減少をくい止める手立てを講ずる必要がある。

委員の意見

（古城）令和 5～6 年にかけてなぜ土木希望者が減ったのか？民間企業が好調になって公務員離れをしたのだろうか？

（三上）日本工学院から公務員というワードでは学生が集まらなくなったと聞いた。

（宇野）企業説明会の手ごたえは良かったと見受けられる。

（大坂）参加者からは、適する人さえ見つければぜひ本校に送りたいとお話いただいた。

（三上）入学相談員が東北へも企業訪問や高校訪問をしているが、今のところ青森 1 社からの入学のみである。学生募集は企業委託生に重きを置いている状況である。

（宇野）環境土木工学は人気がない理由はあるのか？

（三上）学習内容が難しいというイメージがあるのかもしれない。入学試験で数学を課さなければ学生が集まるのではという思いもあるが、測量や力学の勉強には基本的な数学力が欠かせないと考えている。一方で、造園緑地科には AO 入学（書類選考のみ）でも優秀な学生が集まっているので、一概には言えない。

VIII 財務

< 令和 6 度後期の報告と令和 7 度の改善方針 >

1 報告

①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

（本校 HP の情報公開にて開示）

【評価 3.1】

- ・在校学生数の安定的確保が中長期的な学校共通課題と認識。
- ・学生からの学費（収入）と人件費、備品等必要経費（支出）を累計すると、学校として自立的な運営に至っていない。今後、寄付金制度の変更により実習費等の購入に工夫が必要。
- ・使用頻度の少ない施設・設備の存続や、高価な備品の購入に対し、学校の財務状況を把握したうえで計画的に検討していく必要がある。

2 改善

(1) 学校に関する諸経費について、学校管理職員には諸経費の詳細を公開していただき、学校として節減できる部分を洗い出し節減に努める必要があると考える。これが無いため職員間で経費削減の意識が弱いと感じる。

(2) 備品の購入にあたっては、教科指導のための学習支援教材であることを認識したうえで、中・長期的視点に立って計画的な予算執行を常としたい。

今年度は、GNSS 受信機、そのソフトウェア等を購入いただいた。全科で有効に使用したい。
(3) 上記①について、特別指定校 特例 A：土木 2、造園 4、特例 B：土木 3、特例 C：土木 1 名、合計 10 名が合格。

委員の意見

(岩瀬) 札幌造園協会の協力で、職業能力開発協会を通し、実習材料費 40 万円程度を支援していただいている。園芸も 25 万円程度支援していただいている。北海道森と緑の会にも現場見学会のバス代を負担していただいている。様々な支援いただいていることにこの場で感謝を申し上げます。

＜令和 7 年度前期の報告と令和 7 年度後期の改善方針＞

1 報告

(1) 日常の電気・暖房器具の節約を呼びかけ、使用頻度の低い雑誌や新聞の定期購入の見直し等を行っている。また長期休業中の清掃員の勤務や未使用のモップ交換（ダスキン）等も検討。

2 改善

(1) これまで実施されていない、学校に関する諸経費の詳細を公開していただきたい。このことで個々の職員による財務改善の意識が高まるものと思われる。

(2) 財務の大枠は学生数と職員の人件費にあることから、教員が常に学生数の増加に努める意識を持つことで、学生数の増加につながる。その結果財務の改善につながるとと思われる。

委員の意見

全員の合議を得た。

IX 法令等の遵守

＜令和 6 年度後期の報告と令和 7 年度の改善方針＞

・ 職員の評価は概ね良好。

1 報告

・ ハラスメント等への対応は、その規定を学校運営上の留意点に示し、年度当初、校長より全職員に周知しているため、今年度はこれに反する行為は見られなかった。

2 改善

(1) 法令は随時改定されるため、引き続き新たな情報の入手を心掛け、正しい理解に努める。その上でコンプライアンスを遵守した学校関係規定を作成し、厳正に実施していきたい。

委員の意見

全員の合議を得た。

<令和7年度前期の報告と令和7年度後期の改善方針>

1 報告

- (1) ハラスメント等への対応は、昨年同様、年度当初に校長より全職員に周知しているため、今年度もこれに反する行為は見られなかった。
- (2) 今年度、熱中症に対する指針が示されたため、これに合わせ本校独自の熱中症対策マニュアルを策定した。今夏は警戒レベルが基準を超える予報が出た際、朝礼にて注意喚起がなされた。

2 改善

- (1) 法令は随時改定されるため、引き続き新たな情報の入手を心掛け、正しい理解に努める。その上でコンプライアンスを遵守した学校関係規定を作成し、厳正に実施していきたい。

委員の意見

(三上) 年2回、学生にハラスメントアンケートを実施している。今年度1回目では重大な申し出はなかった。